



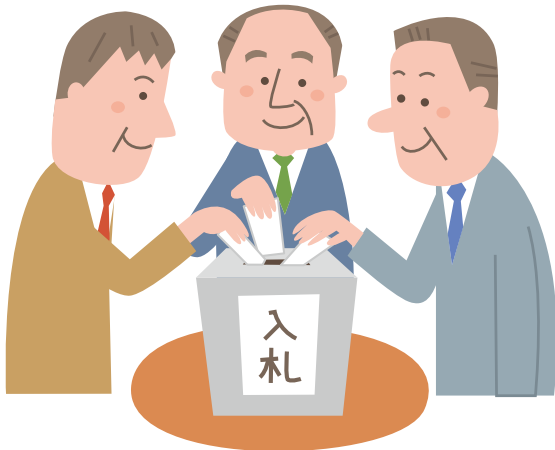
橋本 功議員

なぜ指名競争入札を重視するのか

橋本議員

(1)地方公共団体の契約は原則として一般競争入札で業者を選定しなければならない。

指名競争入札の問題は業者指名の際に発注者の恣意が働く、また談合が行われやすいとも指摘されている。本村は、なぜ指名競争入札を重視するのか。



建設業者育成・指導に努めるため

村 長

(1)村内の業者で対応できるものは、経済活性化と建設業者育成・指導に努めるため、指名競争入札を重視している。

橋本議員

(2)国や地方公共団体が発注する事業は、公的資金を用いた公共性の強い性格を持っており、公共工事の発注に当たっては入札及び契約の透明性、公平性、公正性、競争性が求められる。

①公共契約の件数と指定管理者を含む業務委託の件数は

②本村の工事種別格付け業者数は

③指名競争入札における業者指名の基準は

総務課長

(2)①平成30年度は入札による契約件数は工事151件、業務委託56件、備品購入1件の契約を締結した。指定管理との協定は3件となっている。

②土木一式が32業者、建築一式が16業者、舗装が18業者、水道施設が15業者、造園が6業者である。

③請負対象金額に応じ、ランクに属する建設業者のうちから指名を行っている。

業者をAからDのランクに分けており、工事請負対象金額2,500万円以上がAランク、700万円以上2,500万円未満がA・Bランク、300万円以上700万円未満がB・Cランク、300万円未満をE・Dランクの指名を行っている。

建設業担い手育成支援は

橋本議員

(3)建設業は地域雇用や経済を支え地域社会生活にとって重要な産業の一つであり、建設業者を支援することは地域政策として重要だ。

建設人材確保、育成を促進するためには、管理技能士の資格取得に必要な研修を行い建設業の担い手育成を支援できないか。

県の制度を活用し対策を進めたい

村 長

(3)熊本県において「ひと・しごと輝きプラン」が策定されている。本村でも職人の高齢化により事業展開に支障をきたすことが予想されることから、若年者の技術者育成としてこのような制度を活用し、将来に向けた対策を進めていくことが重要だ。